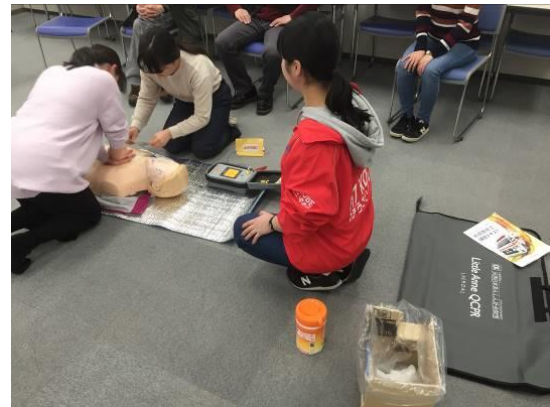


2018 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	117KOBEBほうさいマスター育成会議
活動テーマ	阪神・淡路大震災の教訓の継承、心肺蘇生法普及活動



阪神・淡路大震災から四半世紀が過ぎようとしており、神戸市民の5割近くが震災未経験者となっています。そんな中で若い世代に対していかに防災を「自分事」としてとらえ、災害に備えることの大切さを伝えることが重要であると考えます。

そこで「117KOBEBほうさいマスター育成会議」では、兵庫県下の大学の協力のもと、震災の経験のない大学生を募って「117KOBEBほうさい委員会」を組織し、大学生が震災の経験者から当時の話を聞いたりしながら学び、子供たちや若い人たちへ、震災の教訓と継承を行うとともに、災害時にリーダーシップを発揮できる人材の育成も行っています。

実際には、さまざまなイベント会場でブース出展し、親子連れや若い世代を中心に、新聞紙のスリッパやポリ袋のレインコートなど身近なものを使った防災グッズ作りや、JR西日本あんしん社会財団様からご提供いただいた心肺蘇生練習用人形やAEDを使った体験をワークショップ形式で行っています。ヴィッセル神戸やINAC神戸の試合会場や、音楽イベント「カミングコウベ」などでもワークショップを行いました。

また、神戸市内の小中学校で開催している、「ほうさい出前授業」については3年目を迎え、神戸市内の7小中学校より実施依頼があり、委員会のメンバーが自ら考えたクイズ形式の授業を行い、大変好評を得ました。

117KOBEBほうさいマスター育成については、人形を使った心肺蘇生法とAEDの講習を行うと共に、震災に関するWEBクイズ検定を行い、合格者を「117KOBEBほうさいマスター」として認定し、災害時にリーダーシップを発揮する人材の育成し、地域防災力の向上を図っています。